

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	津田 彰	所属	久留米大学文学部心理学科
研究集会等名称	ストレス科学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 48名 (うち認定心理士 1名) 非会員 2名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 本年度は以下の通り、日本心理学会第78回大会にてシンポジウム (PNEI 研究会との共催) と国際セミナーを開催した。</p> <p>1. 第78回日本心理学会企画シンポジウム (2014年9月10日, 15:30-17:30, 同志社大学) 演題: 「ストレス研究における生理心理学の意義」 司会者: 岡村尚昌 (久留米大学), 山田富美雄 (大阪人間科学大学) 話題提供者: 津田 彰 (本会代表者: 久留米大学), 田中豪一 (札幌医科大学), 野村収作 (長岡技術科学大学) 指定討論者: 坂野雄二 (北海道医療大学) 実施内容: 本シンポジウムでは、ストレス研究において、生理指標と主観指標を同時に測定する生理心理学的アプローチの意義、長所と短所について最前線の研究者に話題提供を行い、議論を深めることを目的とした。始めに企画者 (堀内 聡: 北海道医療大学) から、本シンポジウムの趣旨説明を行った。引き続き話題提供者は、ストレスと健康への新しいフィールド・実験法 (津田 彰), 慢性・蓄積ストレスの心理生理学的評価法 (田中豪一), ストレス応答のシステム論 - 「評価」から「制御」 (野村収作) というタイトルで、各領域の最近の知見を紹介し、研究の意義・長所・短所について報告した。それを受けて指定討論者に口火をきってもらいフロアとの議論を深めた。シンポジストの発表時間を制限したことが幸いし、その後の議論が活性化し、成功裏に終了した。</p> <p>2. 国際セミナー: Kurume International Seminar 2014 (2014年10月2日, 13:00-17:30, 久留米大学) 演題: 「Well-being, Stress and Health」 実施内容: 代表者主催にて、国内の研究者 (矢田幸博), 中国の研究者 (張涉珍), 韓国の研究者 (金ウィ淵) による講演3題を実施した。研究会の目的の一つであるアジア研究者との共同研究の可能性を探ることができた。また、代表者研究室所属の大学院生と研究生6名 (中国人1名を含む) が個人研究を発表し意見交換を行った。</p>		

2015年3月18日

日本心理学会研究会 2014年度会計報告書

研究会名称 ストレス科学研究会

研究会番号 \_\_\_\_\_

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2014年10月3日	会場（施設）利用料の一部	¥30,000
支出合計		<u>¥30,000</u>